

(寛延三年) 午二月

御 横 目

九四 驛々馬借之儀に付觸

私共支配三郡宿方馬借、近年商人荷物致減少、傳馬荷物次第多罷成、馬借持共并荷問屋必至と潤色無御座、難儀仕候。依之馬借おのづから致不足、或弱馬に成宿方御用勤兼申躰に罷成候。元文三年茂宿方之儀、關屋佐左衛門・林源太左衛門相勤候節、及御斷一統被仰觸候。馬借困窮仕候に付、御貸米奉願、御貸渡被下爲取續、宿方御定之馬數丈夫に持立候處、近年宿方荷物之様子猥に罷成、宿方并馬借難儀仕候に付、此通に御座候ては次第馬借數減少可仕と奉存候間、左に相調候通一統被仰渡候様仕度奉存候。

一、近年加越・能所々御藏米・引免御引足米・御下行米・侍中飯米等藏出之時分、侍中假名を以傳馬にて駄數多差出、此内金澤町人共方之差届候様申渡、搗屋・酒屋或米問屋等之過半爲届候故、町人共侍中假名を以商米附寄候哉、紛敷御座候。是以後侍中飯米にても、町人方之直に差届おろし申米は、駄賃商人荷物同事に爲請取可申候。尤紛敷疑敷米

は、駄數も其日馬有合次第爲附届可申候。且又大豆・小豆なども右同事御座候。近年馬飼料之大豆并米等も、身上不相應之員數一度爲附寄、直に町人ども方へおろさせ申候儀、紛敷儀に御座候故、宿方馬借及難儀候段、毎度相斷候得共、とくと相しらべ候様申渡置候所、近年別而米・大豆駄數多罷成申候。依之商荷一向致減少、馬借おとろへ申候。

一、小松より疊表・葭簾等、御作事方御用と申着出、金澤荒物屋共方之爲附届申候。此儀も、御作事方御用町人共請負申儀に候得ば、商荷物之駄賃相渡可申管に御座候處、傳馬にて取寄申候。向後請負申儀御座候ば、御作事所之附届申分は傳馬、請負人の方之直に爲附寄申分は商荷之駄賃、爲請取可申候。

一、赤板類・木綿類・線綿・藥種・煎茶等によらず、侍中或は寺庵之名を以、町人才領にて傳馬を取、金澤町人共方之爲附届申候。惣而何品によらず、侍中・寺方など之名にて、町人ども方之爲附届申分は勿論、寺方之直に爲附届候共、不相應之品或は過分之荷物は、紛敷儀御座候間、商荷之駄賃爲受取可申候。

一、近年小松炭、商荷致減少、傳馬炭多御座候様子承候處、小松町人共、同所侍中或は足輕共侍中之家來之名判之送りを添、金澤侍中に附届申候。先年と違、毎日數十駄之儀にて、馬數致不足候得ば、人足持爲致候得共、中々其日に着届申儀難仕候故、時節により宿方に而一夜も留申儀も御座候。毎日過分之儀、傳馬指支、人足等も指出、以之外難儀仕候。然所炭目不足有之旨にて、馬形は勿論、馬肝煎迄度々其屋敷之呼寄、彼是及僉議申に付、馬肝煎は宿役も差支、馬形は馬借指支申候。炭之儀は外之荷物と違、宿々にて附下し仕儀故くだけ、薄俵より拔落申に付、四五百目位之儀は目立不申故、宿々繼來申儀御座候。侍中身上不相應過分に傳馬にて炭爲附、商荷致減少、宿方難儀仕候上、又候哉少々目不足有之候得ば、毎度馬肝煎・馬形等呼寄、彌及難儀申候。向後侍中之附寄申炭には、急度才領指添不申候ば、馬有合次第爲附届、尤目不足有之馬肝煎等呼來候共、罷越中間敷旨申付置候。

一、金澤より京都中使所荷物往來六度、先年より一度に本荷二駄、輕尻馬一疋充出申候處、近年は一度に五六駄或十

駄程宛着通申候。且又藥種屋・太物屋問屋などより爲登銀之荷物に、侍中之指札にて傳馬にいたし罷通候由御座候。依之先年より有來候爲登銀之荷物、近年一駄も無之、其上傳馬に御定之貫目より以之外重荷附出、馬持共殊之外致迷惑候間、中使荷物など向後重荷附出不申、爲登銀に侍中之差札不仕様、急度被仰渡可被下候。此上重荷或爲登銀、侍中之指札仕罷通候ば、傳馬にては附通不申様申渡置候。

一、能州・越中より鹽鱈・鹽鱈など侍中へ取寄申候所、身上柄よりは過分之駄數着寄申人々も有之候。ケ様之儀、馬借持ども及難儀申候。是等之品も先年とは違、近年過分に成申候。向後侍中取寄申儀に候ば、急度才領指添候様仕度候。才領にも町人或は紛敷疑敷荷物は、おろし置及斷候様申渡、末々とくと爲承合附届可申候。

一、能美郡・石川郡山方にて出來之たばこ、鶴來村などより附越候儀も右同様御座候。此外右に准申品々有之、疑敷荷物之分是又宿々に指置、及斷候様申渡置候。以上。

(寛延三年) 庚午二月晦日

岡田一平太